

道東浅海漁業の問題点

(その 1)

は し が き

一昨年五月、釧路水試に赴任以来、仕事を通じて出来るだけ管内の浅海漁場を一日でも早く知りたいと思つて歩き廻りました。まだ見る目は深くなくとも一応それによつて色々なことを知ることが出来ました。

この管内の海域は他の海域に比べて資源に恵まれ、漁業そのものは活気にあふれて発展途上のものが多く、また浅海資源の活用にもない、その保護増殖対策が盛んになつてゐることは非常に喜ばしい事です。しかしこれらにも色々な問題があつて、特に底着資源を主として漁業を行つてゐる地域では決して安定した漁業形態とは云えないようです。

そこで、これらの中から順次見たまま、感じたままの問題点を書き連ねて浅海増殖の方向を考えてみたいと思ひます。

◇ウニ漁業◇

従来、道東海域のウニ漁業は海の濁りが烈しく透明度が悪いために浅海の干潮帯を対象にした比較的生産の低い漁業とした。しかし近年になつてウニ漁場が深みにも開発され、潜水漁業が行われるようになり資源の利用度は非常に高くなつています。この潜水漁業は羅臼地先の浅海漁場を除いて釧路、根室地域で広く行われてはいますが、比較的歴史が浅く統計面で見ますと昭和三十八年以降に急激に生産量が伸びております。またこの海域のウニはエゾバフンウニで占められ、キタムラサキウニは稀れにしかみられません。更に地先によつて成長、成熟等が異なり、漁期そのものにも多少の違いがあるようです。また餌料生物としてはコンブとの関係も深いように考えられます。

このように当海域のウニ漁業の形態は漁民の権利を自分で行使しないで特定の潜水業者に又貸しして行われ、一般の人が誰でも行える漁法でないところが漁業上の問題点があるように感じます。従つて今後は漁具、漁法等の解決と共に現在の潜水漁業による資源の影響に留意する必要があります。

一方、この海域の中にあつて羅臼地方のみは透明度が高く、タモ採りが行はれ、増殖対策も熱心に進められて資源維持に努めております。しかしここでも特にコンブ資源との競合など心配される問題が生じており、移植などの方法に研究が必要なようです。いづれの種も羅臼地方の浅海重要資源である以上、双方に悪い影響を与えないようにして発展を図るべきは論をまたない所でしょう。

(次号に続く)

(増殖部 寺井)